

氏名 秋 山 孝 子

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 博 乙 第 1932 号

学 位 授 与 の 日 付 昭 和 63 年 9 月 30 日

学 位 授 与 の 要 件 博 士 の 学 位 論 文 提 出 者 (学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当)

学 位 論 文 題 目 大 腦 辺 縁 系 キ ン ド リ ン グ に よ る メ タ ン フ ェ タ ミ ン へ の 反 応 性 の 変 化

— てんかん性行動異常の実験的研究 —

論 文 審 査 委 員 教 授 森 昭 胤 教 授 庄 盛 敏 廉 教 授 大 田 原 俊 輔

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

てんかんにおける精神病状態出現の原因をドーパミン作動薬への反応性に焦点をあてて探るために、精神運動発作のモデルとされる大脳辺縁系キンドリングのネコでメタンフェタミン (MAP) 負荷試験を行った。扁桃核キンドリング完成後には、MAP による異常行動が有意に増強し、自律神経系の反応性の変化も認められた。また MAP による異常行動出現時には全身痙攣は抑制される傾向にあり、ピモジド前処置によりこの抑制効果は消失した。一方、海馬キンドリング群では、MAP 負荷による異常行動の増強は、海馬固有の発作症状を示す時期にはなく、扁桃核の発作症状が加重され二次性全汎化した時点で初めて認められた。以上の成績より、扁桃核焦点発作が繰り返し出現していると、MAP の反復投与時にみられる逆耐性現象に類似した MAP への反応性増強が起こり、それが発作の発現に抑制的に関与することを考察した。また、その抑制系に脳内ドーパミン系が関与することを指摘した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は扁桃核キンドリングを完成したネコにおいてはメタンフェタミンによる異常行動が増強し、またその異常行動出現時には全身痙攣が抑制することを観察し、さらにその抑制系にはドーパミン系が関与することを示唆したもので、てんかん性行動異常について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。